

## 継続研さんの大切さ



取得した資格：技術士(建設部門:道路)  
資格取得年度：令和5年度

まちなが まさひろ  
待永 正浩\*

### 受験の動機・経緯

私が技術士を目指したのは、まずは技術力向上のためです。私は1級土木施工管理技士を取得した後10年間は資格取得に関心を持つことはありませんでした。しかしながら、技術力の低下を感じていたため、資格取得を目指すことが技術力の向上につながると考えるようになりました。また、公益性の高い業務に従事していることや技術士法に定める公益確保の責務が自らの職務と一致していたこと、さらに、身近な方が技術士であったことも受験の動機となりました。

職場に長崎県技術士会の事務局が置かれ、技術士会の活動や技術士の豊富な知識・知見を知り、感銘を受けました。技術士の資格は、科学技術系で最難関かつ最高峰の国家資格とされ、国家五大資格の一つに数えられることもあります。技術者である以上、技術士は目指すべき資格だと感じるようになりました。

技術士制度の改正を経て、第一次試験からの挑戦でしたが、一次試験は2回目の受験で無事に合格することができました。次の第二次試験は、合格率10%前後の難しい試験です。「10回受験すれば合格できるだろう」という安易な考えで受験していましたが、実際にはそれ以上の回数を重ね、ようやく合格することができました。

今回は、私のように遠回りばかりしないよう、皆さまの受験に役立てるように、まとめましたのでご一読いただければ幸いです。

### 筆記試験における傾向と対策

第二次試験（筆記試験）は、解答論文を作成することが一苦労です。午前の必須科目は、2時間で答案用紙3枚・1,800字以内、午後の選択科目は、3時間半で答案用紙6枚・3,600字以内でまとめる必要があります。

私は、先輩技術士が開催した研修会で骨子法を学びました。骨子法は、解答を書く前に、設問に対する内容や要点を書きだして骨子を作成し、論文の骨組みをつくる方法になります。頭の中で整理や組み立てができる人は問題ありませんが、書いているうちに論点がずれたり、知っている部分を偏って書いたりしますので、それを避けることができます。骨子法を学んでからは、内容を整理できるようになったので、骨子法の活用をおすすめします。

近年の設問は、背景や現状が設問に書かれており、解答しやすくなっています。設問を踏まえ、課題・問題点、複数の解決策、解決策に対する懸念事項とその対策などを体系的に整理していきます。筋が通るように組み立てることで、自分でも納得がいく解答になると思います。

筆記試験対策として、本誌（月刊「建設」）を読み込んだり、骨子法のように体系的に整理されている日経BP社「合格指南」や鹿島出版会「傾向と対策」を活用することが有効であると思います。選択科目は「道路」を選択しましたが、国土交通省の道路関係予算概要を読み込むことが対策になったかと思います。

\*公益財団法人 長崎県建設技術研究センター 技術部 建設技術課 係長（副参事）

また、一般社団法人全国建設研修センターの研修や一般社団法人全日本建設技術協会の講習会を受講することもおすすめします。

## 口頭試験における傾向と対策

11月初旬に第二次試験（筆記試験）の可否通知が届きますが、合格であれば、可否通知の横にある「技術士第二次試験口頭試験について（通知）」で、試験日、試験時間、試験会場が示されます。私の場合、口頭試験まで約1ヶ月しかなく、事前準備も十分ではなかったため、準備が間に合うかどうか不安に感じました。時間が限られたため、日刊工業新聞社「技術士第二次試験口頭試験受験必修ガイド」を参考に準備を進めました。口頭試験の対策としては、想定問答集を作成し、先輩技術士からアドバイスを受け、模擬面接も行っていただきました。先輩技術士の模擬面接では、緊張で質問に答えることができずでしたが、そのことをきっかけに、何度も面接の練習を重ねました。ただ、当日の午前中もオンラインで面接の練習を行いましたが、冷や汗が止まらず緊張が解けませんでした。それで腹を括り、大声で練習をして、午後の口頭試験に臨むと、落ち着いて回答できました。緊張をほぐし、自信を持って試験に臨むことが大切だと思います。

口頭試験は、技術士としての実務能力として、①コミュニケーション、リーダーシップと②評価、マネジメントが試問されます。これは技術者に求められる資質能力（コンピテンシー）を確認するためであり、コンピテンシーを自分の業務の中でどのように意識して取り組んできたのかを説明できるようにしておく必要があります。次に、技術士としての適格性として、③技術者倫理、④継続研さんの試問がされますが、技術士法や技術士倫理綱領、技術士CPDを良く理解しておかなければなりません。①～④のそれぞれが評価され、1つも落とせないため、注意して丁寧に答えることが必要です。

## これから受験される皆さまへ

令和8年度の技術士第二次試験では、技術士に求められるコンピテンシーが若干変わりますので、その改訂内容を十分に理解しておく必要があります。項目は変わらず、内容も大きく変わってはいないものの、情報技術の活用が明記されたほか、ステークホルダーの意見の反映、包摂的な意思疎通や協働などが取り入れられています。

継続研さんでは、「CPD活動を行い、コンピテンシーを維持・向上させ、新しい技術とともに常に変化し続ける業務の性質に適応する能力を高めること」となりました。

## おわりに

技術士試験は、筆記・口頭ともに高い専門性と実務力が求められる国家資格です。合格までの道りは決して平坦ではなく、何度も挑戦する方も少なくありません。私自身も、何度も受験を重ね、ようやく合格にたどり着きましたが、その過程で、コンクリート・舗装・IT・点検関連等の資格取得にも取り組み、自己研さんを続けてきました。研修や実務経験を積み重ねることで、技術士としての土台が築かれたと感じています。

時間の制約、家族の理解や精神的な負荷等があり、継続は容易ではありませんが、それでも継続することが力になると考えます。

高校時代の剣道の恩師は、剣道八段（合格率1%未満）を43回目の挑戦で取得されました。その姿から学んだのは、「諦めないこと」、「積み重ねること」、「信じること」で、これは技術士試験にも通じると考えます。

日本には、長い時間をかけて技を磨く文化があります。武道、工芸、茶道、そして技術。いずれも一朝一夕ではなく、継続と鍛錬によって本物になるという価値観です。

JABEEコース修了者をはじめ、受験資格を持つ方は、是非その一歩を踏み出してください。社会に貢献する技術者の証である「技術士」を、不撓不屈の精神で目指してください。

### 【著者紹介】待永 正浩（まちなが まさひろ）

平成7年琉球大学大学院工学部工学科機械工学専攻修士課程修了。発注者支援業務に従事。保有資格：技術士（建設部門：道路）、一級土木施工管理技士、一級舗装施工管理技術者、公共工事品質確保技術者（Ⅱ）、道守、コンクリート技師、土木鋼構造診断士補、ITパスポート等